

# インドネシア洪水被災地 AMD A派遣者帰国 「内科の治療が必要」

災地に、国際医療NGO「AMD A」（本部・岡山市）が派遣していた調整員と看護師各1人が活動を終えて帰国し、3日、岡山市内で報告の記者会見をした。

洪水・土砂崩れは6月18日以降の大雨で発生。現地災害対策本部の集計では、27日現在で死者207人、行方不明10人という。

AMD Aインドネシア支部の要請で派遣された山上正道調整員(36)と小

堀他津子看護師(44)は、24日にスラウエシ島に到着。被害の激しかったシンジャイ県の山岳部や農村部を、インドネシア支部の医師らと巡回し、けが人らの治療などにあたった。

山上さんは「インドネシア支部が対策本部と良好な関係を築き、円滑に活動できた」。小堀さんは「地震と違い、内科や小児科の治療が必要だと分かった」と述べた。

インドネシア・スラウエシ島南部で6月に発生した洪水・土砂崩れの被